

1 主 題 何度も粘り強く〔1－（2）勤勉努力〕

2 資料名 「シロクマの クウ」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目1－（2）は「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う」ことをねらいとしている。自分がやらなければならないことをしっかりとやり抜くことは、児童が自立し、よりよく生きていくために大切なことである。この時期の児童は、自分で自分をコントロールすることが難しく、言動も一貫性がないことがある。学校生活の中で、勉強や係の仕事を通して、自分でやらなければならないことにしっかりと取り組み、やり通すことの大切さを感じさせ、しっかりと行おうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

(平成25年11月7日調査 第1学年*人)

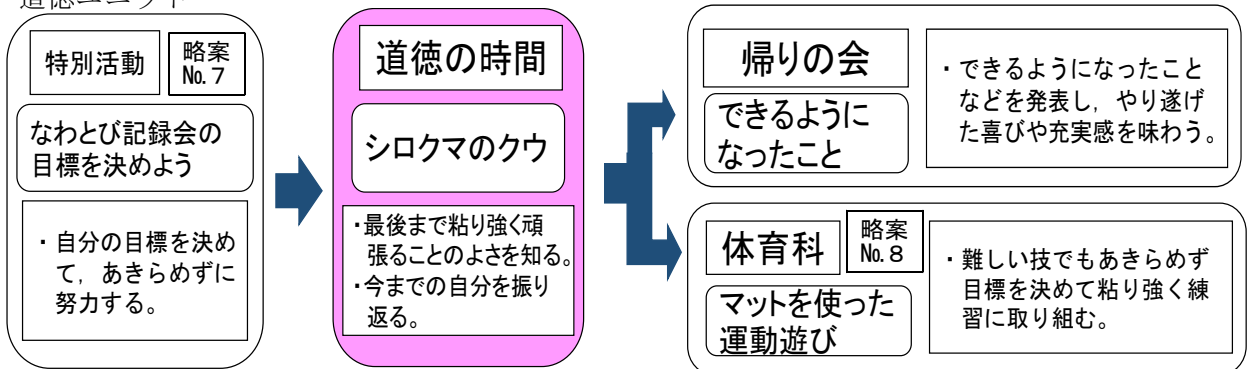
・あなたはあきらめないでがんばったことがありますか。	・ある *人	・うんどう *人	・べんきょう *人
・どうしてがんばれたのですか。	・ない *人	・そうじ *人	・無答 *人
・いまはできないけど、できるようになりたいことはありますか。	・すきだから *人	・やるきがでたから *人	・まだがんばれたから *人
	・ある *人	・さんすう *人	・とびばこ *人
	・ない *人	・その他 *人	

1年生の様子を見ると、何に対しても楽しみながら活動に取り組む児童が多く見られ、調査の結果からも大変意欲的な様子が見て取れる。しかし児童の普段の生活を見ると、課題が終わらなくても休み時間に遊びに行ってしまうたり、いい加減にやって提出してしまったりする児童もあり、意識と実態に差が見られる。児童はみんな「できるようになりたい」という気持ちを持っていることが分かった。その気持ちを大切にしながら指導をしていく必要があると考える。

(3) 資料について (資料名「シロクマの クウ」小学校道徳読み物資料集 文部科学省)

本資料は、シロクマのクウが自立するために、自分でえさを取ることができるまでの様子を描いたものである。クウが自分の力でえさを取るまでの様子は、児童の自立に向けた自己実現の過程を映し出すものである。自立には、何度も粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。児童がともすると母親に頼りがちになるクウに共感し、親に甘えようとする心と自立しようとする心との間の迷いを考えさせ、ねらいとする価値に迫りたい。

4 道徳ユニット



5 本時の学習

(1) 目標

自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。

(2) 自尊感情を育むのための手立て

- 共有体験を実感させるために、横に並んで前を見られるように円弧に座する学習形態を工夫する。 (共視)
- 友達の考えを説明し合うことで友達の気持ちに寄り添う体験をさせる。 (共感)
- おてつだいちょうに書かれたお家の人からの言葉を紹介し、実践への意欲を高める。 (共感)

(3) 準備・資料

挿絵 ワークシート 心の表情カード こころのノート おてつだいちょう

(4) 展開

欄	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 (◆聴能能粒 ※評価)
5	<p>1 自分でやらなければならないことについて話し合う。</p> <p>○自分でやらなければならないことにはどんなことがありますか。</p> <p>25 2 「シロクマの クウ」を読んで話し合う。</p> <p>○うまくいかないけど「こんどこそ、ひとりでとってみせるよ」と言った時、クウはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>◎座りこんでしまった時、クウはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○一人で魚がとれたとき、クウはどんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日宿題をきちんとやること。 ・当番の仕事を忘れないでやる。 ・自分のお掃除場所がきれいになるように頑張る。 ・うまく魚がとれなくてくやしいなあ。 ・やってもらいたいけど自分でやらなくちゃいけないんだな。 ・絶対に一人ですとるぞ! ・魚がとれないと一人前にはなれないから頑張らなくちゃ。 ・一人でとって、お母さんを喜ばせたい。 ・あきらめようかな。だって寒いし、うでもいたいんだもん。 ・お母さんにやってもらいたい。だってうまくとれないから。 ・とれるようにな練習しなきゃ。だってこれであきらめたらいつまでたっても魚がとれるようにならない。 ・自分の力でとりたい。だってぼくも一人前になりたい。 ・自分一人の力でできて、うれしい。 ・あきらめないで頑張ってよかった。 ・お母さんも喜んでくれる。 ・もっと練習して一人前になれるように頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このころのノートの「がんばってるね!」(P 18, 19) を基に、自分でやらなければならないことを具体的に思い起こさせ、ねらいとする価値への方向付けをする。 ◆円弧に並んで前を見られる学習形態を工夫し、共有体験を実感させる。(共視) ・心の表情カードを使ってクウの気持ちを表情で表し、黒板に掲示することによって気持ちを視覚的に理解できるようにする。 ・ネームプレートを黒板に貼って自分の気持ちはどの考えに近いかを示させ、考えの類型化を図る。 ・ワークシートにクウの気持ちを書かせる際、「だって」の後にそう考えた理由を書かせることで、クウの気持ちを深く考えさせる。 ・クウの気持ちになかなか寄り添えない児童には、お母さんの表情にも着目させてクウの置かれた立場に立った考え方を引き出すようにする。 ◆考えの理由を表す気持ちが思いつかない児童には友達に説明してもらおうこととお互いの考えを共有できるようにする。(共感) ・ペアで話し合わせ、できた時のうれしい気持ち、自分の成長を実感する気持ち、次も実践したいという気持ちなど、多様な思いがあることに気付かせる。 ※自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行うことの大切さに気付くことができる。(ワークシート・観察・発言)
10	<p>3 最後まで粘り強く行って、よかったと思うことや、現在努力していることについて発表する。</p> <p>○最後まで頑張ったことや、今頑張っていることに、どんなことがありますか。</p> <p>5 4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一輪車ができなかったけど、毎日練習したら乗れるようになった。 ・漢字を覚えられるか心配だったけど、繰り返し練習したら覚えられてうれしかった。 ・計算が速くできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しかったが自分でやるべきことを自分一人の力でやり遂げた経験を想起させて話し合わせる。 ・思いつかない児童には導入時にこのころのノートを使って出された考えを基に自分の経験を考えるよう助言する。 ◆おてっだい帳に書かれたお家の人からの言葉を紹介し、実践への意欲を高める。(共感)